京都大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム
「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」

帝国システムの政治・文化的比較研究

NEWSLETTER

NO.1
2004/4/24

■ 本研究のめざすところ（ニューズレター発刊の辞にかえて）

研究代表者　杉本 淑彦

今春から新規の研究班がいくつかスタートした。わたしたちのこの研究班も、その一つである。先行する各研究班とともに、「人文知の新たな総合」に取り組んでいきたい。

さて、人類はこれまで、いくたの帝国の興亡を経験してきた。そして今日でも、「帝国」は死滅せず生命力を保ち続けている。植民地支配は――すくなくとも政治的支配という意味では――ほとんど地球上から消滅したのだが、「帝国」という用語でもって理解されるシステムは、現在でも存続しているのである。しかし、今日のグローバル化時代の帝国システムは、それ以前に存在してきた帝国システムとは異なるものになるのかもしれない。

グローバル化時代以前、つまり前世紀中葉までなら、それぞれが自己充足的のものであろうと、あるいは相互連関的なものであろうと、複数の帝国システムが、同時に並列して地球上に存在してきた。古代では漢帝国とローマ帝国が並存し、また、イスラーム世界帝国をあいだに挟んで、西にはビザンツ帝国や神聖ローマ帝国、ハプスブルク帝国が、東には中華帝国（隋唐、宋、元）やモンゴル帝国が並存していた時代があったのである。グローバル化時代直前には、イギリスやフランス、ドイツ、イタリア、ロシア、さらにはアメリカが、争いながら領土・植民地拡張を通じてそれぞれの帝国システムを構築していた。近代帝国主義時代とよばれる時代のことである。やがてこれらの西洋起源の帝国システムは、オスマン帝国を襲い、さらに東方の清帝国をも脅かしていく。日本が独自の帝国システムを築くのも、この時代である。

第二次世界大戦までは複数が並存してきた帝国システム。そのシステムは、グローバル化時代に入るとどのように変容するのだろうか。単一の帝国システムが地球全体を覆い尽くすのか。それとも人類は、多元的世界を志向して、性格の異なる帝国システムが並存するという経験を続けるのだろうか。

本研究は、古代から現在にいたるさまざまな帝国システムの比較研究をおこなうことを通じて、帝国システム間の相互影響作用や、帝国システムが有する功罪の検証などをおこない、そのうえで、グローバル化時代に入っての変容を展望しようとするものである。

いいかえれば、本研究の分析枠は三つからなっている。過去生起した帝国システムの比較検討。これがまず一つ。第二は、ふつう帝国主義とよばれる１９世紀近代の帝国システムそのものと、それが現在につながる時代に及ぼした功罪の分析。最後は、――これが本研究のもっとも重要な分析枠だが、第二次世界大戦後加速するグローバル化のなかで、アメリカを中心とした現代の国

際的な支配秩序がいかに形成され、変容していくのかを検討する。アメリカを中心としたそのような支配秩序を帝国システムととらえることの当否を含めて検討することが、第三の分析枠では必要となるだろう。

また本研究では、帝国システムを政治的かつ文化的な側面から総合的に把握するために、狭義な意味での歴史研究だけでなく、ポスト・コロニアル理論などの文学研究との協同をもおこなう。

経済史・政治史研究からスタートした帝国研究は、近年、社会史・文化史研究へと広がり、その内容を豊かにしつつ総合化への段階に入ったといえる。また、昨年末からにかぎっても、山本 有造編『帝国の研究—原理・類型・関係』（名古屋大学出版、２００３年１１月）や、山内 昌之『帝国と国民』（岩波書店、２００４年４月）など、優れた研究書の公刊があいついでいる。本研究は、政治史や国際関係史、社会文化史など各分野の研究者の参加をあおぎ、帝国研究が突入したあらたな地平をさらに広げることを目指すものである。

■ 研究会メンバー

（文学研究科）

紀平 英作　教授（現代史学）
永井　和　教授（現代史学）
杉本 淑彦　教授（二十世紀学）
小野沢　透 助教授（現代史学）

（京都大学学内）

李　昇燁　人文科学研究所助手

（若手研究者）

佐野 方郁　大阪外国語大学非常勤講師
山口 育人　京都大学大学院文学研究科 COE 研究員
冨永　望　京都大学大学院文学研究科研修員
宗田 昌人　京都大学大学院文学研究科研修員
吹戸 真実　京都大学大学院文学研究科 COE 研究員
黒澤 和裕　京都大学大学院文学研究科博士後期課程（二十世紀学）
前田 正直　京都大学大学院文学研究科博士後期課程（現代史学）
溝上 宏美　京都大学大学院文学研究科博士後期課程（現代史学）
井上　治　京都大学大学院文学研究科博士後期課程（現代史学）
川嵜　陽　京都大学大学院文学研究科博士後期課程（現代史学）
小林 敦子　京都大学大学院文学研究科博士後期課程（二十世紀学）
松下 慶太　京都大学大学院文学研究科博士後期課程（二十世紀学）

（研究協力者）

山澄　亨　椙山女学園大学
浜井 和史　外務省外交史料館
酒井 一臣　日本学術振興会特別研究員

■ 今後の研究会の予定

◇ 第一回 COE 研究会

—日時：４月２４日（土）、午後１時半から５時まで

—発表者：山澄　亨氏（椙山女学園大学）、小野沢　透氏（現代史学専修助教授）

—発表題目：山澄氏「アメリカ帝国論をめぐって」；小野沢氏「帝国論の周辺」

—会場：陳列館１階会議室

◇ 第二回 COE 研究会

—日時：５月８日（土）、午前１０時から正午まで

—発表者：杉本 淑彦氏（二十世紀学専修教授）

—発表題目：「フランス人達のパックス・ブリタニカ」

—会場：新館第二講義室

◇ 第三回 COE 研究会

—日時：５月２９日（土）、午後１時から３時半まで

—発表者：冨永　望氏（文学研究科研修員）（発表題目未定）

—会場：新館第二講義室

◇ 第四回 COE 研究会

—日時：６月２６日（土）、午後１時から３時半まで

—発表者：酒井 一臣氏（日本学術振興会特別研究員）（発表題目未定）

—会場：新館第二講義室

◇ 第五回 COE 研究会

—日時：７月１７日（土）、午前１１時から午後５時まで

—発表者：平田 雅博氏（青山学院大学）、溝上 宏美氏（現代史学博士後期課程）、もう一名は未定

—現代史研究会との共催

—会場：京大会館

＜連絡先＞
〒６０６－８５０１　京都市左京区吉田本町
京都大学文学研究科　現代文化学共同研究室
電話/ファックス：０７５－７５３－２７９２
E-Mail: teikoku-hmn@bun.kyoto-u.ac.jp
担当：吹戸 真実

「国王と皇帝たちのケーキ」（フランスの大衆新聞『ル・プチ・ジュルナール』１８９８年１月１６日）

「中国（Chine）」という名前のケーキを切りとろうとしているのは、向かって左から、英女王ヴィクトリア、独皇帝ヴィルヘルム２世、露皇帝ニコライ２世と、マリアンヌ像のフランス共和国、そして、侍姿の日本である。膠州（Kiao-Tchéou）湾を奪いとろうとしているヴィルヘルム２世に対して、派手な装飾具で身を飾り、しかも肥満のヴィクトリアが、まなじりを決してケーキの一部を自分のものにしようとしている。ロシアと同盟関係にあるフランスは、旅順（Port-Arthur）を取ろうとしているニコライ２世の背後にあって、一人だけナイフ類を持たず、テーブルにもついていない。中国分割競争で先頭を切る金満国イギリス、猛然とそれを追いかけようとしている二番手ドイツ、そして三番手はロシア。フランスと、不気味に黙考中の日本は、四番手争い、といった順位付けがおこなわれている。